

コスモス 4月号

第71巻 第4号

◆宮柁ニカレンダー（49）四月の歌

雨霧の白く閉してとき逝く春の大河のたいがごとく夜の
庭は見ゆ
歌集『忘瓦亭の歌』

春の終りを煙るように降り続く雨。その雨霧に閉ざされた夜の庭はまるで大河のように見えてくる。

いつしか柁二の心は若き日に苦しみ戦った中国の大河を蘇らせているのではなからうか。この歌は悲哀と共に大河を慈しむ気配もある。それは上句の美しい語が醸す抒情であり、更に中国の荒涼たる大地や民への敬虔な思いが根底にあるゆえだろう。

初出の昭和48年「新潮」への十首の中には「戦争を深く憎みて憎むまでに知る恐れより語らずわれは」の歌もある。
(宮本君子)